

今週のみことば

「冬の中に春を待つ」

(ルカの福音書 22章 31節～34節)

「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのため
に祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりな
さい。」(22:32)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○最後の晩餐の席で、イエス様は今後サタンの誘惑、試練に遭うことになる
弟子たちに話され、またペテロには「あなたの信仰がなくならないように祈った、
だから立ち直ったら、みんなを励ますように」と話されました。ペテロが「御一
緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しています」と言い返すと、イエス
様は「あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう」と
答えられたと言います。そしてこの後、その通りのことが起こります。人の決意
とか、覚悟とかいうものは、なんともろいのでしょうか。ペテロはまさか自分が本
当にイエス様を知らないと言うなんて思ってなかった。ペテロはこの時初めて、
自分の知らない自分があることを思い知ったのです。彼は情けなかった。自分が
信じられなかった。罪深い自分を感じた。それで声を上げて泣いたのです。

○こんな弱さは誰にもあります。使徒パウロもローマ7章15節で「私には、
自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているの
ではなく、自分が憎むことを行っているからです」と、心の内を吐露しています。

イエス様は、ペテロの弱さをご存知でした。ですから、あらかじめ執り成しの
祈りをささげてくださいました。それは自分に挫折したペテロが信仰を失うこ
となく、再び立ち上るためでした。自分の弱さに気づいたペテロだから、できる
務めがあるのです。それはペテロと同様、挫折を味わった大勢の兄弟姉妹たちを
力づけ、励ますという務めです。逆境にあってもくじけない強い信仰はとても大
事です。でも、ここでイエス様がペテロに求めているのは、自分の弱さも人の弱
さも受け入れて、互いに赦し合う信仰です。弱い人を見たらつい裁いてしまうこ
わばった信仰ではなく、人の弱さを受け入れ、支え、力づける執り成す信仰を求
めておられます。

○最後に、「立ち直る」という言葉には、「本心に立ち帰る」とか「主に立ち帰
る」などの意味があるようです。いつも主に立ち帰っていけるよう、背後でイエ
ス様が祈っておられます。イエス様は、十字架の上でも、「父よ、彼らをお赦しく
ださい。彼らは何をしているのか知らないのです」と、祈られました。弱い時も
あれば、元気な時もある私たちです。信仰においても同じです。冬もあれば、春
もある。ときどき人生が冬で終わるみたいなことを言う友人がいます。でも、私
は言います。「冬で終わりじゃない、春が待ってるよ」と。弱さだらけの私たちを、
キリストが執り成してくださっていることを思うと、立ち上がらない訳にはいか
ないのです。主は十字架の死で終わることなく、復活されました。ですから、い
つも兄弟姉妹互いに力づけ合って、たとえ冬の中にも春を待つ日々を歩んでいき
たく願うものです。